

四日市公害の検証「塩浜小学校」

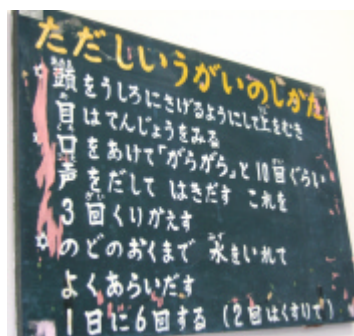
前にもレポートに書いた7月22日の四日市公害「現地視察」では、石原産業から塩浜小学校に向かった。小学校は第1コンビナートに隣接する塩浜地区にあり、もっとも深刻な公害被害をもたらしたことで有名だ。写真にある「展望塔」の階段を上ると、コンビナート地帯が見渡せる。それにしても学校がコンビナート工場と隣接していることがよくわかる。



樋口健二『はじまりの場所 日本の沸点』で、1966年11月当時の塩浜小学校校庭や「うがい」風景などの写真が掲載されている。当時の校歌も紹介されている。「港のほとり並びたつ 化学の誇る工場は 平和を護る日本の 希望の 希望の光です 塩浜っ子 塩浜っ子 僕たちは 明日の日本 築きます」コンビナート賛歌が盛り込まれた校歌だが、塩浜小学校だけでも公害認定患者の子どもは50人にのぼった

生徒たちは登下校時にはマスクをつけ、毎朝うがいや乾布まさをしながら、この校歌を口ずさんだという。「うがい場」はそのまま保存されており、そこで澤井さんから説明を聞いた。

「うがい場」はたくさん蛇口が並んでおり、壁には「ただしうがいのしかた」と



いう掲示がかかっていた。樋口さん撮影の写真にあった、

当時の生徒たちの「うがい風景」が思い起こされた。公害をきちんと記録して、若者たちに伝えていくことの大切さをあらためて感じさせられた。

(2007年9月17日 記)